

長野市伝統芸能団体

保存団体	フリガナ 団体名	オオモンドリホゾンカイ 大門踊保存会		
	伝統芸能の 名称	大門踊		
	地区・ 行政区	松代地区		
行事 (祭礼)	名称	松代城春まつり	松代文化芸術祭	真田まつり
	場所	松代城址	松代文化ホール	松代城址
	時期	4月	6月	10月
	内容	大門踊の披露		
	いわれ ・特徴	<p>大門踊について</p> <p>大門踊は、真田十万石の城下、松代町の祇園祭礼に当たり、余興の一つとして催されてきた郷土の舞踊です。</p> <p>因みに松代町の祇園祭礼は、江戸時代には非常な賑わいを見せ、全国でも指折りの大祭として広くその名を知られていました。</p> <p>祇園祭礼の当日、松代藩真田家の殿様は、町の中心伊勢町にありました藩の役所「御使者屋」の棧敷において、藩士の馬術を初めいろいろの余興を見物され、夕刻帰城の際に松代城大御門(大手門)の前に設けた松葉棧敷に着席され、この踊は、その御前で踊りましたので、『大門踊』と呼ぶようになったと伝えられています。</p> <p>踊りの起源は余り詳らかではありませんが、江戸時代初期の慶長年間、徳川家康の六男松平忠輝候が松代城主だったとき、徳川將軍家の男子出生を祝うために催されたものが始まりとされています。</p> <p>その後元和八年、真田信之候が上田から移封して松代城主となり、以来松代領真田十万石の千秋万歳の弥栄を寿ぐとともに、五穀豊穡を祈る豊年踊の性質も合わせ持つ踊りとなりました。</p> <p>大門踊は、松平忠輝候時代の「肴町御先踊り」と、真田氏が移封してからの「七ヶ町踊り」の二種の踊りで構成されていますが、踊りの動きや歌詞の中に、今は滅びてしまった「伊勢踊り」の形態が残り、「収穫祝い唄」や「雨乞い祈願」などの要素も含まれている珍しいものであると、高野辰之文学博士が評価しています。</p> <p>廃藩後は久しく行われませんでした。大正十年、松代開府三百年祭を執行するに際して復活し、その後、全国的な舞踊・民謡大会でも好評を博し、昭和四十四年長野市無形文化財の第一号に指定され、現在に至っています。</p>		